

DYNIC CORPORATION



環境報告書

2017



目次

ごあいさつ P.1

会社概要 P.2

環境基本方針 P.3

2016年度環境活動 P.4~P.8

環境負荷低減のために

地域とともに

環境負荷低減の取り組みと実績 P.9~P.12

地球温暖化・省エネルギーの取り組み

省資源・廃棄物削減の取り組み

●水資源の有効活用

●廃棄物削減の取り組み

化学物質排出削減の取り組み

環境関連商品 P.13

ごあいさつ

ダイニックは、製品の開発から廃棄まで 常に環境保全を考えた企業活動を推進しています。

暮らしを「豊かに」そして「快適に」彩ることがダイニックのテーマです。

ダイニックの全従業員は、住みよい地球に向かうための環境基本方針を常に心掛け、技術と環境との調和を踏まえた、環境にやさしい企業活動に日々努めております。

私たちダイニックでは、VOC 処理装置や蓄熱燃焼式脱臭装置を導入して化学物質排出削減を実施し、LED 照明および高効率揚水ポンプへの更新や、送水ポンプのインバーター制御導入によって省エネルギー対策を行っています。また、滋賀工場内にある天文台「アストロパーク天究館」では多賀町から委託を受けて、町内の小中学生による「多賀町アストロクラブ」を運営して、天体観測と共に環境啓発活動も行っています。

今後も信頼される企業であり続けるために、次世代に向けて、全従業員が一丸となって環境対策への取り組みを強化し、地球環境と生活環境に配慮した環境関連商品の開発に組み込み、地球環境保全の実現に貢献する企業活動を推進してまいります。



平成 29 年 8 月

ダイニック株式会社
代表取締役社長

大石義夫

会社概要

商号	ダイニック株式会社 DYNIC CORPORATION
創立	1919年8月18日
資本金	57億9,565万円
株式	東京証券取引所一部上場
売上高	281億円(グループ含み400億円) (2017年3月31日現在)
従業員	595名(グループ含み1,398名) (2017年3月31日現在)
本社	京都本社:〒615-0812 京都市右京区西京極大門町26番地 電話 075-313-2111(代) FAX 075-313-2116
	東京本社:〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル 電話 03-5402-1811(代) FAX 03-5402-3146
営業所	札幌、東京、名古屋、大阪、福岡、香港、シンガポール、米国、タイ、英国、中国、インドネシア(グループ含む)
工場	滋賀、埼玉、王子、富士、真岡、シンガポール、米国、タイ、英国、中国、インドネシア(グループ含む)
関連会社	国内6社、海外10社
事業内容	書籍装幀用クロス、印刷・ビジネス用各種クロス、パッケージ用化粧クロス、銀行通帳用クロス、フィルムコーティング製品、表示ラベル用素材、複合フィルム、プリンターリボン、名刺プリンタ、文具紙工品、磁気関連製品、有機EL用水分除去シート、カーペット、壁装材、天井材、ブラインド、自動車内装用不織布・カーペット、フィルター、産業用ターポリン、テント地、雨衣、産業用不織布、容器密封用アルミ箔・蓋材、各種紙管紙器、パップ剤用フィルム加工、食品鮮度保持剤、接着芯地、ファンシー商品、商品等運送・保管他(グループ含む)



環境基本方針

【ダイニックの環境基本方針】

ダイニック株式会社は、環境保全への取り組みを重要な経営課題と認識し、国内外の環境関連法規制を遵守するとともに、環境負荷のより小さい製品を市場に提供していくことが製造メーカーとしての責任と考えている。その考えを具体的に実行するため、開発、資材調達、製造、販売、流通、及び廃棄のそれぞれの段階で、以下の項目を徹底推進する。

- (1) 製品のライフサイクルを通じ、事業活動のすべての段階で環境負荷を低減する。
- (2) 省エネ、廃棄物の減少に積極的に取り組み、環境汚染の防止に努める。
- (3) 有害な化学物質による環境を損なうリスクを予防する。
- (4) 環境に関する事業活動についての情報を開示し、地域社会と協調しながら、環境保全活動を積極的に推進する。
- (5) 環境保全に対する教育を徹底し、環境への意識向上を図る。

ダイニック株式会社
代表取締役社長 大石 義夫

■環境負荷低減の取り組み

製品の設計段階から、環境負荷の少ない素材、再利用しやすい素材を考慮することはもちろん、エネルギー負荷の少ない製造方法や、省資源、長寿命化を考慮した製品設計を行なっています。製造段階では、日々の製造現場において、省エネルギー、廃棄物削減に努め、環境負荷低減に取り組んでいます。販売段階では、当社製品をご利用いただくことで、お客様の環境負荷が低減できる環境対応製品を提案し、地球環境保全に貢献する取り組みを行なっています。

■地球温暖化対策・生物多様性保全の取り組み

ダイニック全体で省エネルギー活動に取り組み、二酸化炭素の排出を削減することにより、地球温暖化対策を推進しています。また、生物多様性保全についても、地球温暖化対策等のリスクへの対応により、地球環境との共生を目指して取り組んでいます。



2016 年度環境活動

環境負荷低減のために ～排出量削減活動～

●VOC 処理装置

埼玉工場に VOC 処理装置を導入しました。

フィルムコーティング設備から排出される揮発性有機化合物（VOC）を浄化し大気汚染を防止する装置です。浄化する際に発生する熱を回収・再利用しているため、燃料消費量を低く抑えることができます。（2016年4月稼働）



●蓄熱燃焼式脱臭装置

滋賀工場の環境負荷低減の取り組みとして、蓄熱燃焼式脱臭装置を導入しました。

熱交換にセラミック製蓄熱材を用いているため、熱回収率が高く、VOC 除去率 95% 以上の処理が出来、環境面及び省エネ性に優れた装置です。

生産設備から出る VOC や臭気成分を分解し、大気汚染防止及び作業環境改善に貢献しています。

（2016年4月稼働）



2016 年度環境活動

環境負荷低減のために ～省エネルギー設備導入～

●揚水ポンプ更新

埼玉工場で使用する工業用水の揚水ポンプを最新式高効率ポンプに更新しました。

今までのポンプに比べ消費電力を大幅に削減できました。

今後ほかの井戸の揚水ポンプも更新していく予定です。

(2016年7月更新)



●送水ポンプインバーター制御

真岡工場の送水ポンプを吐出側の負荷変化に合わせて適正な圧力と給水量になるようインバーターで回転速度の制御を行っています。

給水量が少ない夜間及び休日の消費電力を大幅に削減するためインバーター導入前に比べ25%程度消費電力を削減出来ています。

(2016年12月導入)



2016 年度環境活動

環境負荷低減のために ～省エネルギー設備導入・再生可能エネルギー～

●LED 照明

王子工場の天井照明を蛍光灯から LED 照明に順次更新しています。

蛍光灯に比べ消費電力を大幅に削減する事ができています。

また、LED 照明は紫外線を出さず虫を寄せ付けにくいため、品質の安定化にも貢献しています。

(2016 年 5 月更新)



●太陽光発電システム

滋賀工場の遊休地を利用して、設備容量 374KW の太陽光発電システムを設置しました。

太陽光発電は、発電時に CO₂ を排出しないクリーンエネルギーとして、世界中で利用されています。

(2016 年 9 月設置)



2016 年度環境活動

地域とともに

●多賀町アストロクラブによる環境啓発活動

ダイニックアストロパーク天究館では多賀町から委託を受けて、町内の小中学生による「多賀町アストロクラブ」を運営しています。多賀町アストロクラブでは望遠鏡などを使っての天体観測活動と共に、環境啓発活動も活発に行っています。

2016年は夏と秋に町内の国道のゴミを拾う道路清掃活動（写真1）を行い、清掃の結果から多賀町ゴミマップを作成し、多賀町長にゴミを減らすための提言を行いました。また、10月に開催された、多賀町ふるさと祭りでは、会場内のゴミを集め、量や分別の具合を調べるごみ回収パレードを実施しました。これらの環境啓発活動に対して、12月に開催された滋賀県エコクラブ交流会にて、滋賀県知事より県知事奨励賞を受賞（写真2）しました。



(写真1)アストロクラブによる道路清掃活動



(写真2)滋賀県知事奨励賞授賞式



2016 年度環境活動

地域とともに

●天究館による熊本地震復興支援活動

2016年4月14日に発生した熊本地震では、多くの人や様々な施設が被害を受けました。熊本県内の天文施設（天文台やプラネタリウム）でも大きな被害がありました。こうした施設を支援することによって、熊本の人たちに元気を出してもらおうと、天究館を中心に、多賀町アストロクラブや天究館友の会などによる復興支援の寄せ書きの送付や、7月には復興支援七夕飾り、年末には復興支援巨大年賀状の送付などの支援活動を行いました。

支援先の熊本県民天文台や、いくつもの施設から感謝の手紙をいただくとともに、これらの施設による星空観察の活動で、多くの子どもたちに喜んでもらい、元気を取り戻してもらえたとのこと報告をいただきました。



熊本地震復興支援の寄せ書き

●里山保全活動

早稲田大学本庄キャンパス・大久保山にて（公財）本庄国際リサーチパーク主催の落ち葉掃きに当社より4名が参加しました。定期的な落ち葉掃きにより、なかなか見られなくなっていた植物が再生するなど、生物多様性保全効果があるとのことでした。掃き集めた落ち葉は堆肥化して、畑で利用しています。（2016年12月）



撮影（公財）本庄早稲田国際リサーチパーク

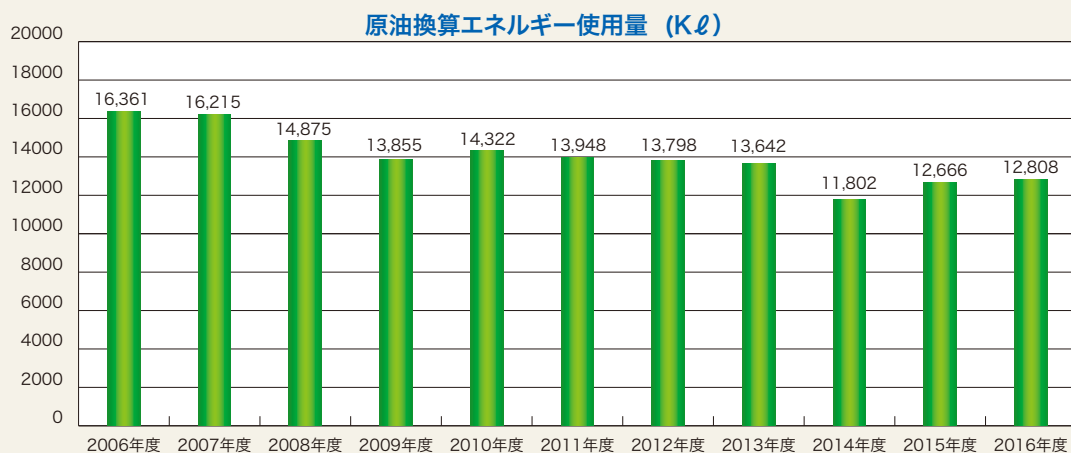


● 環境負荷低減の取り組みと実績 ●

地球温暖化・省エネルギーの取り組み

生産活動ではエネルギーを消費し、製品を造りだしています。これに伴い、温室効果ガスであるCO₂を排出します。CO₂の排出削減を目的に、生産工程でのエネルギー使用量の削減に取り組み、2009年度比で毎年1%削減を目標に掲げ、活動を展開しています。各種省エネ設備の投資として、工場天井照明のLED化、変圧器や空調機の高効率型への変更、コンプレッサーを集中型への変更、事務所照明をLEDに変更等を計画的に実施しており、また設備の新設や改善などのエネルギー効率を良くする生産性改善も実施してきました。

2016年度の実績につきましては、エネルギー使用量とCO₂排出量が生産増加により対前年度比では増加しました。エネルギー原単位につきましては目標は達成できませんでしたが、対前年度比では改善いたしました。2017年度は、エネルギー効率改善や省エネ設備投資をさらに進め、目標達成に向けて取り組んでゆきます。

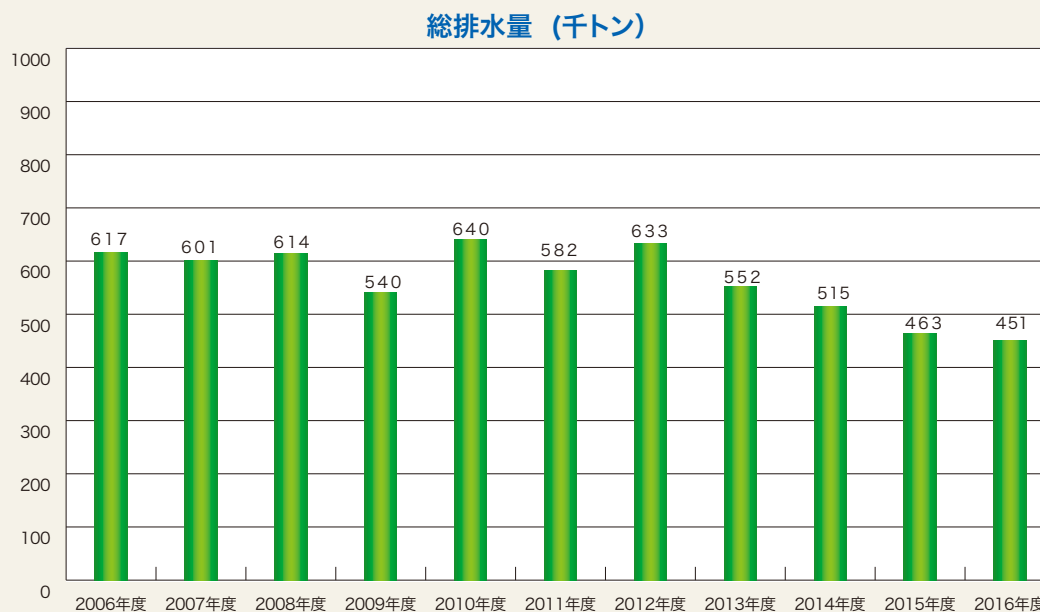
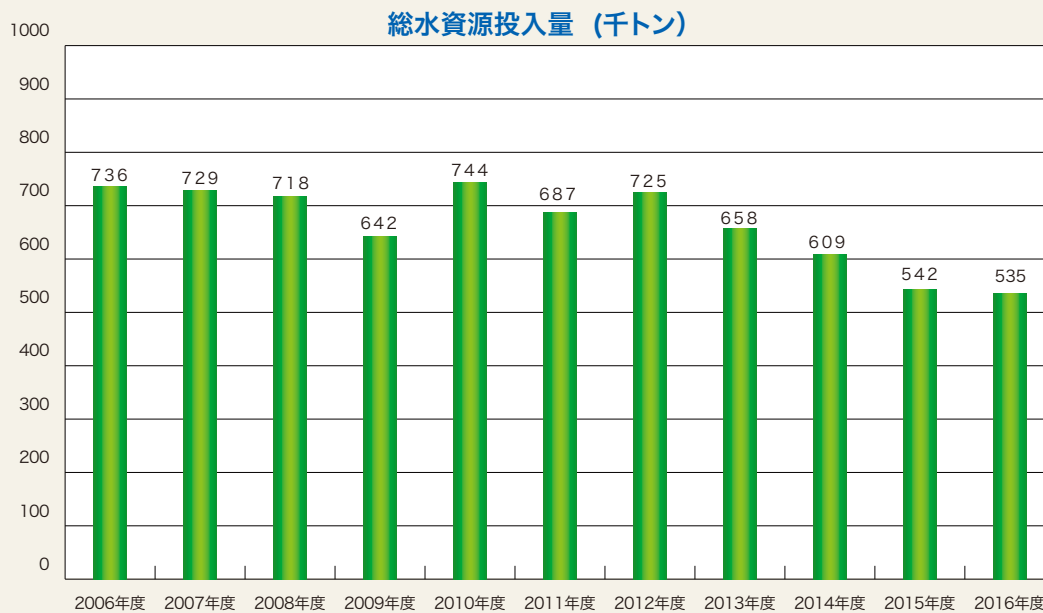


省資源・廃棄物削減の取り組み

●水資源の有効活用

ダイニック全体で、水資源の有効活用に取り組んでおり、生産工程で使用する洗浄水や、冷却水などのリサイクルを推進し、総水資源投入量・総排水量の減少に取り組んできました。

2016年度は総水資源投入量 535 千トンで対前年度比 1.3% 減、総排水量 451 千トンで対前年度比 2.6% 減と共に削減できています。



●廃棄物削減の取り組み

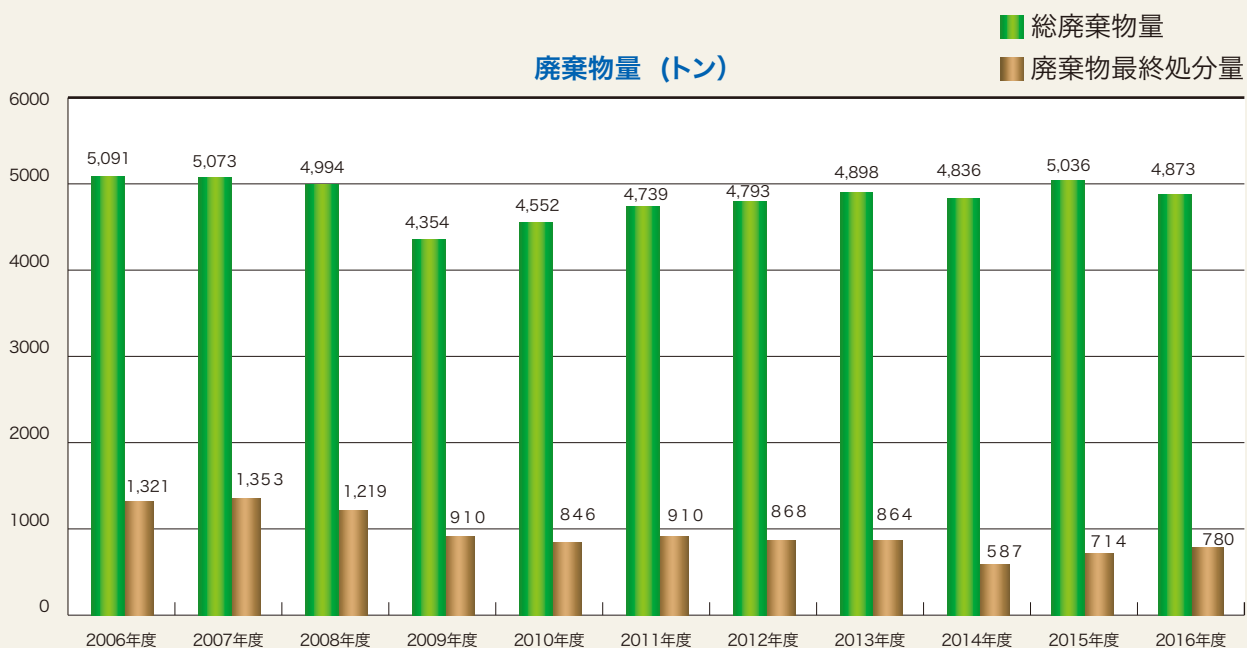
地球環境保全のため、廃棄物の削減に取り組んでいます。取り組みは、廃棄物の総量を減少させるだけでなく、資源の有効利用の観点から、リユース・リサイクルを進めてきました。2016年度の総物質投入量は33,179トンでした。

2016年度の廃棄物最終処分量は780トンと対前年比で若干増加しましたが、総廃棄物量は4,873トンで対前年度比3.2%削減となりました。

総物質投入量 (トン)



廃棄物量 (トン)



廃棄物の定義を見直したため総廃棄物量の数値を変更しました。

化学物質排出削減の取り組み

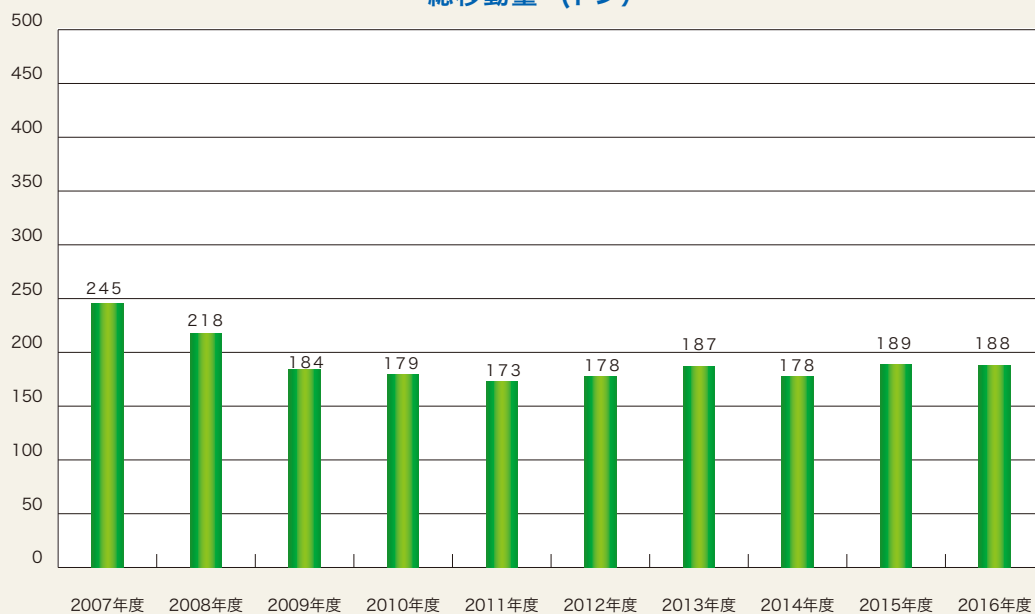
PRTR 法に従い使用中の化学物質の環境への排出量の届け出を行うとともに、削減に努めています。

2016 年度の総排出量は VOC 処理装置導入（4 ページに関連トピックス）の効果もあり対前年度比 7.3% 削減できました。総移動量もわずかですが対前年度比で削減しています。今後さらに、環境への排出量削減に努めてゆきます。

総排出量 (トン)



総移動量 (トン)



環境関連商品

ダイニック株式会社は社会の発展や、より豊かな暮らしの創造に貢献するさまざまな商品の開発に、鋭意取り組んでいます。そしてそのような新商品を社会に提供することが、事業を通じた社会への貢献につながるものと考えています。当社では、「地球環境と生活環境に配慮した商品」を環境関連商品と定義しています。

【地球環境に配慮した商品】

■ 環境への負荷を低減した商品

▶ 脱塩ビ各種商品

非塩ビファイル（エコファイル）、オレフィン系クロス、紙製振り込みカード、EVAコンテナ等

▶ 再生紙、再生繊維、再生樹脂を使用した各種商品

再生紙使用紙クロス、教科書用紙クロス、背貼り用紙クロス、※再生ポリエステル使用カーペット
※エコマーク接着芯地等

▶ 持続可能な天然資源を使用した商品

※FSC 認証紙クロス（エパロン）

■ 処理処分を考慮した商品

▶ 廃棄のし易さを考慮した商品

ラップ・アルミホイルのカット用紙刃、レーヨン100%カラー不織布（パネロンカラーシート）
油吸着材（オイルキャッチャー）等

▶ 省資源・3R（Reuse,Recycle,Reduce）に貢献する商品

トナーカートリッジ再生、TTR リユース、詰替え用サブカセット等

【生活環境に配慮した商品】

▶ 快適な空間を提供する商品

パネロン脱臭フィルター、抗菌消臭壁紙、マイナスイオン壁紙、空気清浄機用フィルター材、不織布床防音材等

▶ 健康・食品の鮮度保持に役立つ商品

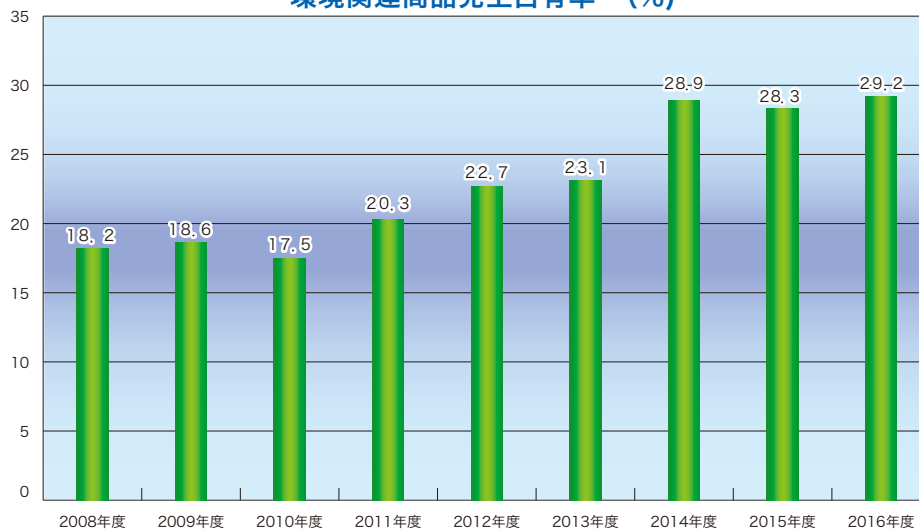
耐水食品包材、食品鮮度保持剤、※ニックセブン表示用ラベル（エコテックス登録）、パップ材の離型フィルム等

▶ 抗菌・消臭を付与した各種商品

抗菌装丁用クロス、抗菌包装材等

※印の商品は第三者認証商品です

環境関連商品売上占有率（%）



これら環境関連商品の個別の内容説明は、当社ホームページに掲載していますのでご覧ください。

当社は「環境関連商品で社会に貢献する」をキーワードに積極的に商品の開発を行ってきました。

その成果として、2016年度の環境関連商品の当社売上に占める比率は29.2%になり前年に比べ0.9%増加しています。

今後もさらに、環境関連商品売上占有率を上げてゆくことで、社会に貢献してゆきたいと考えております。



『環境報告書2017』

発行：ダイニック株式会社 環境推進室

発行日：2017年8月10日